

ごうちゃんひろば

次の10年へ



知ろう 好きになろう 東十郷



「せせらぎ水路」清掃とアマゴつかみ取り

8月27日 日曜日「せせらぎ水路」とアマゴつかみ取りをおこないました。水路を一生懸命清掃した後、お楽しみの「アマゴつかみ取り」たくさんの笑顔に出会いました。



丸岡駅開業記念 饅頭配り

「丸岡駅」は今年開業126年。1987年(明治30年)、9月20日「新庄駅」として開業されました。しかし、5年後の1902年(明治35年)「丸岡駅」に改称され現在に至っています。9月20日「丸岡駅」誕生126年を記念して、駅構内にて126個の饅頭配りをおこないました。

駅舎でコンサート

10月7日(土) 午後7時より、JR丸岡駅 ごうちゃんギャラリーにて「秋を謳おう!」をテーマに、コンサートがありました。



鉄道フェア

10月15日、「鉄道の日」に合わせて、5回目となる「鉄道フェア」をおこないました。300人ぐらいの親子、鉄道好きが訪れ目を輝かせ楽しんでいました。



東十郷の地区

上新庄区

KAMI SHIN JO



①子供神輿 ②春日神社 ③公民館にて区民の方々と交流

🔍 地区の紹介

上新庄区は、周り一面田んぼに囲まれ緑豊かな地区です。周辺には、JR丸岡駅・東十郷小学校・坂井中学校・坂井市役所などがあって利便性が良く住みやすい環境の中、西側には嶺北縦貫道路が南北に通っており通勤やお買い物に出かける際には、大変便利です。

当区の北側には、春日神社の名所があり春先は、多くの桜があり満開となれば凄く綺麗で非常に親しみやすい神社でもあり、家族連れで花見しながら食事をしている方もおられ、区民にとっては憩いの場所となっています。

今年の猛暑の中、田んぼに植えた苗もすくすくと成長し収穫の秋には、秋の日差しに輝く稲穂はまさに「黄金色」に輝き台風の影響も無く無

事に刈り取りが終了しており地区紹介の文章が記載される頃には、農家の方も一段落しておりホッとしています。

📅 行事/イベント

コロナの影響で余儀なく中止していた祭事を4年振りに再開し、10月8日の日曜日に春日神社の秋季祭礼・公民館まつりを同日に開催し神社の神事終了後、大人神輿・子供神輿が区内一円を巡行しました。夕方からは、公民館に出向き多数の区民の方が参加し、いこいサロンの方々による手料理・焼き鳥・豚汁などを食べながらアルコールも入り後半には、抽選会も行い大いに盛り上がり笑顔に溢れたひと時でした。

令和5年区長 高原成企

東十郷「いいね風景」「いいね人物」を下記まで教えて下さい。



東十郷まちづくり協議会

〒919-0511 坂井市坂井町長畑 25-11-1
東十郷コミュニティセンター内 東十郷まちづくり協議会 TEL: 66-4567 FAX: 50-3083
E-mail: jugo-p@mx3.fctv.ne.jp (お問い合わせやご意見・ご感想もこちらまでお気軽にどうぞ)
http://www3.fctv.ne.jp/~jugo-p ※この冊子に掲載をご希望の方はふるってご応募ください。



「駅舎でコンサート」 秋を謳おう！

コロナ禍もあり、3年振りに開かれた「駅舎でコンサート」。会場の丸岡駅のこうちゃんギャラリーには、この日を待ちわびたたくさんの人々が集い、賑やかにそして和やかに、午後7時から1時間半に渡って開かれました。坂井コーラスの混声合唱。オカリナサークル東十郷のオカリナ演奏。「おはや・良作」の民話。そして竖琴の優しい響き。

秋の夜の素敵な時間でした。



Check! こうちゃんNEWS



「せせらぎ水路」 清掃とアマゴつかみ取り

8月27日(日曜日)、生活環境部会主催で「せせらぎ水路」清掃と、そのあと「アマゴつかみ取り」を行いますよと、「郷のたより」で案内したところ100人近くのかたが集まってくださり、猛暑の中、手に手にたわしを持ち汗を流しながら水路を清掃しました。「せせらぎ水路」ってどこにあるの？って思われているかた多いとおもいますが、「せせらぎ水路」は「十郷用水」のパイプライン事業に伴いその上にある「水路」のことです。(東十郷小学校グランド横)流れる水は、20キロ先の鳴鹿大堰から取り入れた「九頭竜川」の冷たい水です。

▲さあ、清掃開始。たわしでござし。



鉄道フェアの開催

10月14日の「鉄道の日」に合わせて、10月15日 日曜日、5回目となる「鉄道フェスタ」を「鉄道友の会」の協力のもとおこないました。多くの子供たちが訪れ目を輝かせて、本物そっくりの鉄道模型に見入っていました。また、持って来たプラレールを自由に走らせるコーナーや、屋外では坂井高校からお借りしたの北陸新幹線を走らせて、子供たちを笑顔いっぱいにしていました。



▲デッキブラシでござし。



▲さあ、アマゴ放流まで休憩タイム。



▲さあ、捕まえようアマゴ。たくさんいるよ！



▲やったあ！
みなさん、ありがとうございました。「せせらぎ水路」とってもきれいになったよ。アマゴおいしかったかな。

1808年(江戸末)の
実話が、215年後の今年、
「紙芝居」にて蘇りました!!

東十郷地区で実際にあった悲恋物語

12場面 絵 高原まゆみさん(駅前)



新企画

ARマークが付いている写真を、アプリを立ち上げてからかざすと写真が動き出す、ARを企画中!

右記のQRから無料のアプリ「COCOAR」をダウンロードしておいてください。

■ iOS

AppStoreで「COCOAR」と検索。もしくは右記QRから。

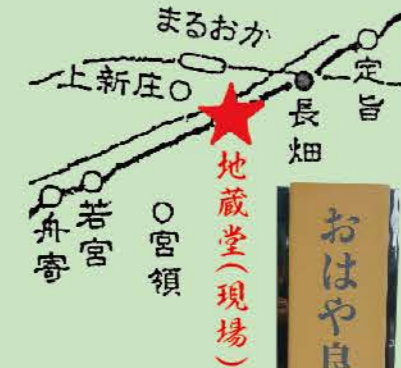


■ AndroidOS

Google Playで「COCOAR」と検索。もしくは右記QRから。



おはやりょうさく お早良作



今回のお話 《お早良作(おはやりょうさく)》

東十郷のみ・ん・わ その2



お早良作

これは、加賀百万石のお城。この話は、江戸末期、金沢に始まり、坂井町で終わった実際の話です。県内を巡った越前万蔵により広まりました。



これは、上新庄にあるお早良作地蔵堂。中には、大きな地蔵様の前に小さなお地蔵様が4体。なぜこんなにたくさんのか? その訳を明らかにしましょう。



お城勤めの良作さんは、安達家の次男で23歳の武士。下働きのお早ちゃんには16歳の町娘。徐々に二人は惹かれあい、結婚を誓い合います。



帰路に就くお早ちゃん。「良作様とはずっと一緒にいてお世話をしたい。でも、町娘の私が、お武家様と結婚なんてできるのかしら」不安がよぎります。



お早ちゃんの手紙通り、身分の違う二人は引き離されます。しかし、忘れられない二人は、隠れて手紙を出し合い、気持ちを確かめ合います。



良作さんは、金沢を出ることを決心。5月の朝、二人は落ちあい、舟でこっそり金沢を出ます。八右衛門という忠義の家来を供にし福井へと向かいます。



おわり

村人の願いで演仙寺様により手厚く葬られました。今も毎年命日の5月6日には法要が営まれているのです。



八右衛門は戻らず、自刃します。ここで4人が亡くなったのです。地蔵堂の4体はその4人のお地蔵様だったので。3体には、名前が残っています。



次にお早に向き、「あの世では必ず一緒になろう」と言い、斬ります。八右衛門には金沢に戻るように命じます。そして、自分を斬らせました。



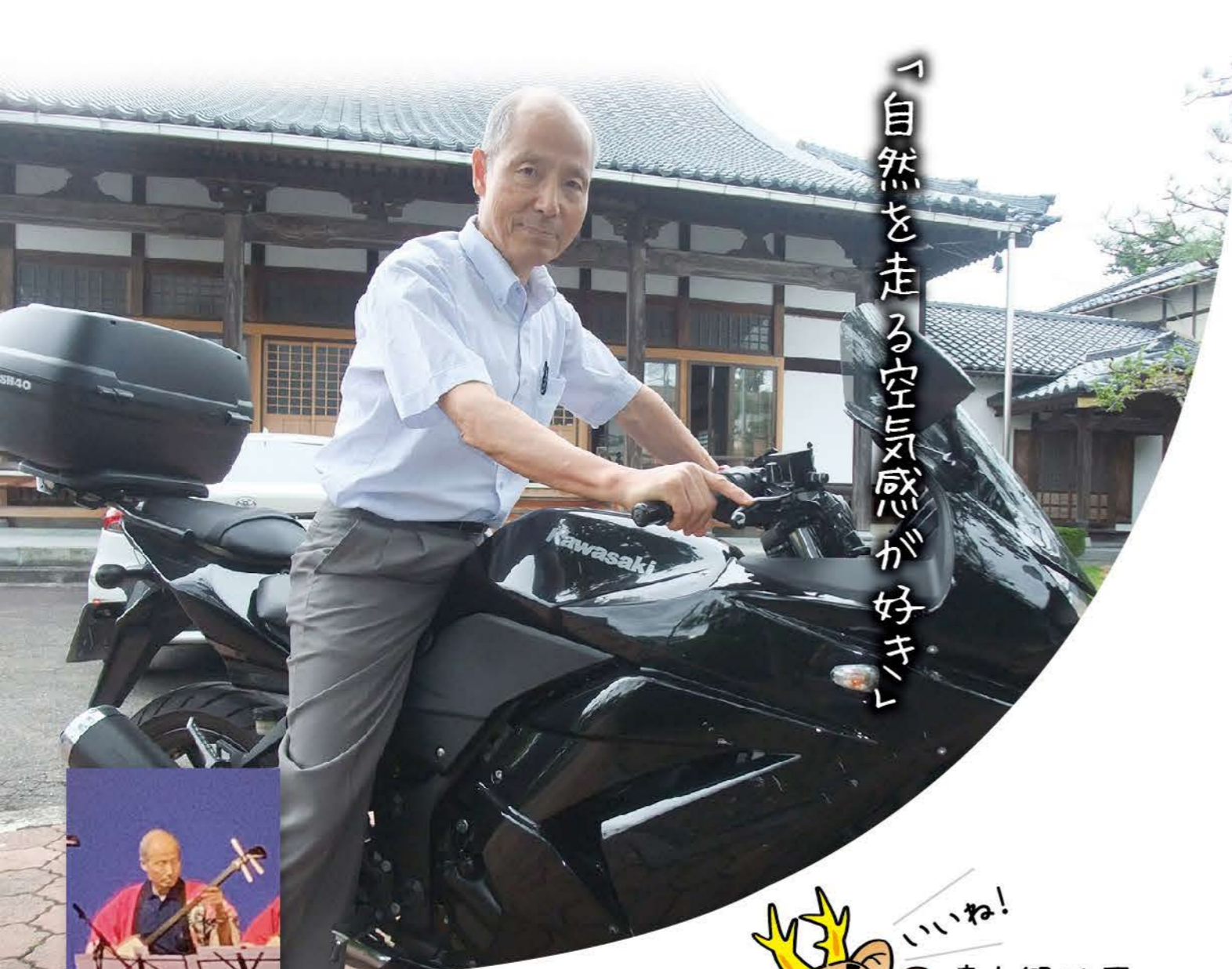
必死で駕籠を追いかけた良作達が追いついたのは、東十郷の地。あくまで戻ろうとするおそよに、早との死を覚悟した良作は、まずおそよを斬ります。



福井の松本で宿をとった三人を追いかけてきたのは、お早の母のおそよ。嫌がるお早を無理やり駕籠に乗せると、金沢へと戻させます。



ひたすら北陸道を歩き、小松、大聖寺、金津、坂井町の各村を抜け、丸岡へ。しばし足を止め、露が城を眺めました。その後、船橋から福井へと急ぎます。



「自然を走る空気感が好き！」



▲多田さんの愛車、カワサキ・ニンジャ250にまたがって。このバイクで今度北海道をツーリングするのが目下の目標だそうです。
◀三味線演奏中の多田さん

いいね!
東十郷地区の
じんぶつ
No.1 多田文樹さん

いいね！人物シリーズ、最初に登場していたのは、「おはや・良作」ゆかりのお寺、御油田地区にある浄土真宗本願寺派「演仙寺」(前任職(第十八代)の多田文樹さんです。さんは、昭和二十四年(一九四九年)生まれの現在七十四歳。静岡薬科大学卒業の薬剤師でもあり、現在も薬剤師として働いているそうです。また、福井事務所で四十年、教師として社会福祉活動に携わっています。

多田さんはいろいろな趣味を持っています。二十歳の時、自動二輪の免許を取り、それから五十四年、(少しプランクの間があるそうですが)九台のバイクを乗り継いできたそうです。ソロツリングが主で、日本各地の道の駅などで、やはりソロツリングで来た人といろんな話をするのがとても楽しいそうです。

また、境内には高い鉄塔のアンテナが建っています。無線局の資格を取りアマチュア無線にものまはまっていた時期があり、遠く海外の人とも交信したとか。海外旅行も趣味で、今までインド、台湾、韓国、タイ、中国、イギリス、カナダ、アメリカなど旅されたそうです。

六十歳になられた時、木部コミセンの「三味線教室」を受講され、以来「十年」なでしこ会」という名で受講仲間と各地のお祭り、イベント、施設などで演奏活動をしているそうです。

本当にアクティブなお坊さんです。まだまだ何か素敵なことをやりそうな、そんな多田さんでした。



「東十郷地区」
ごうちやんの
ディープ過ぎる シリーズ No.2
ふるさと豆知識



▲西群正義さん作(新庄区)

悲劇から二五年守り継がれた地蔵堂
おはや・良作地蔵堂

「おはや・良作」地蔵堂の道をはさんで前に立つ長畑村一里塚の石碑とおはや、良作の供養塔、そして地蔵堂。今も近隣の人達に守られ、道行く人たちの安全を守ってくれているんだ。ふたりは幸せにいてくれるよ。そんなあなたがかさかを感じとれたよ。毎年五月六日に、御油田にある「演仙寺」住職によって供養祭がおこなわれているよ。



前のページで「紙芝居」でお話した、「おはや、良作」の悲恋の地に立つ地蔵堂が駅前地区にひっそりと建っているんだ！今から二五年ほど前(文化五年・一八〇八年)、この地で悲しい恋のお話があったんだ。この地蔵堂の前を通るとき、そんな古の悲しい恋のお話に思いを馳せながら通ってみるのもいいかもしれないね。

「地蔵堂」中に、おはや、良作、お熊(おはやの母親)、八右衛門(良作の家来)の四体の石仏が祀られている。

《お知らせ》
12月2日(土) 13時30分
から越前万歳の公演(お年良作)を行います。
めったに見ることができません。
どうぞお越しください！

